

済対策を行おうとする政策提言が多数みられるようになってきているところである。

また、個人の行動ということを考えてみても、地球温暖化対策のために何かしなければいけない、という意識だけはかなり行き渡ってきており、後はそれぞれに応じた背中を押すものが必要な状態になってきていると言える。それは、見える化であったり、太陽光発電の導入であったり、マイバッグであったり、E3や省エネ家電の選択であったり、と多種多様であり、ようやくそうした多種多様なメニューを提示できる世の中になってきたと言えるのではないだろうか。

4. おわりに

近年の国の財政は均衡重視型であり、世間から見るとなかなか思い切った対策が取られてこなかっ

たとの印象があるかもしれない。また、現下の経済活動の停滞は百年に一度とも称されており、エネルギー消費が減ることによる二酸化炭素排出量の低減が期待できる一方で、技術開発や省エネに対する投資などがしぼむ可能性も有している。

しかしながら、昨年秋以降の世界的な経済危機の影響で、温暖化対策にもなる経済対策が積極的に打ち出されているところである。例えば、太陽光発電設置に対する家庭向け補助が復活し、日本型の固定価格買取制度の導入が決まったほか、エコポイントによる家電3品目の買い換え支援や地域環境基金を通じた支援も始まることとなっている。

地方環境研究所におかれても、これまでにない温暖化対策に対する強い追い風に乗る形で、様々な取組を拡大していくことを期待したい。

■ 支部 だ よ り ■

中国・四国支部のうごき

平成21～22年度は島根県保健環境科学研究所が支部長県として、事務局を担当します。

平成20年度の活動概要等についてまとめて報告します。

なお、今年度は鳥取県衛生環境研究所の担当で、5月14、15日に米子市において支部会議の開催を予定していましたが、新型インフルエンザ対応のため急遽、中止となりました。

1. 平成20年度中国・四国支部会議

平成20年5月15、16日に広島市において、支部総会、所長会及び各部会(庶務企画部会、微生物部会、理化学部会、水質部会、廃棄物部会、大気部会)を開催し、活動報告・事業計画について協議・承認するとともに、各機関からの提出議題について協議・情報交換を行いました。

また、多年、功績のあった6氏に対し支部長表彰を行いました。(支部会議担当機関：広島市衛生研究所)

2. 平成20年度環境測定分析統一精度管理中国・四国支部ブロック会議

平成20年7月9日に愛媛県立衛生環境研究所において開催され、検討委員2名、環境省2名、日本環境衛生センター1名を迎えて、会員機関の分析担当者等21名が参加しました。

概要は以下のとおり。

○報告 ・環境測定分析統一精度管理調査について

(環境省水・大気環境局総務課環境管理技術室高橋補佐)

・平成19年度環境測定分析統一精度管理調査結果について

(日本環境衛生センター東日本支局環境科学部環境対策課西尾課長)

○特別講演「環境測定分析における砒素・セレン等の測定について」

(東京大学大学院新領域創生科学研究科吉永准教授)

○ディスカッション

・水質資料(有機スズ化合物/TBT, TPT, 有機塩素化合物/p, p'-DDE, p, p'-DDD)について

・排ガス試料(硫黄酸化物, 窒素酸化物)について ほか

座長／愛媛県立衛生環境研究所環境研究課環境監視室余田室長

助言者／東京大学吉永准教授, 環境省環境調査研修所牧野講師, 環境省高橋補佐, 同野本企画係長, 日環センター西尾課長

3. 第35回環境保全・公害防止研究発表会

平成20年11月18、19日に広島県保健福祉センターにおいて開催され、環境一般4題、大気4題、水質4題、生物4題、廃棄物4題、化学物質13題の計33題の発表が行われました。

なお、発表に先立って、環境省競争的資金プログラムディレクターの鷺田氏を講師に迎えて「地球温暖化影響研究の現状」と題して特別講演が行われました。